

段々と春の日差しが感じられ、駒場東邦の校舎にも暖かな風が流れる季節となりました。

六十三回生の皆さま、ご卒業おめでとうございます。在校生を代表し、皆様のご卒業を見送ることができて、喜ばしく思います。一方で、この場で先輩方の姿を見ていると、この校舎で共に過ごす日は今日で最後だと実感し、寂しさがこみ上げてきます。

先輩方との駒場東邦での思い出は数多くあります。入学当初から、私たち六十四回生は先輩方の背中を見てきました。クラブ活動や委員会では、私たち後輩とも積極的に関わり優しく接してくださいました。先輩方が高校二年の幹部学年の際には、私たちが意見を言うこともありましたが、退けることなく、時には受け入れ、時には至らない点を指摘してくださいました。先輩方の後輩を指導する姿や、生徒会を運営している姿を見て、私たちも次の年には幹部学年となり学校を引っ張っていく立場になることを実感したことを覚えています。

さて、今から約二年前、振り返ってみると考えられないような出来事が起こりました。新型ウィルスの流行により、日常の授業だけでなく、体育祭をはじめとする様々な行事がなくなってしまい、それまでの駒場東邦の伝統が途絶えてしまったかのように思われました。しかしそんな中、先輩方は、様々な議論の末、文化祭や体育祭をはじめとする行事の開催へと導いてくださいました。計り知れないほどの苦労があったかと思いますが、なんとしても学校行事を行うために、全力を尽くしてくださいました。感謝という言葉では言い尽くすことができません。特に、体育祭は、前年に中止となって一度途切れてしまった上、校庭の人工芝化によって実施できなくなった競技もあった中、私たち後輩に駒場東邦の体育祭の伝統だけでなく、競技で勝った時の喜び、負けた時の悔しさなど様々なことを教えてくださいました。先輩方が残してくださったこの想いや駒場東邦の伝統を、私たち後輩が受け継ぎ、これからも残していきます。また、行政委員会が行っている、中学一年生への部活紹介も、先輩方が新しい形を作り、私たちの代、そして次の代でもそれを受け継いだ形で行われようとしています。先輩方が残したさまざまな新しい伝統が受け継がれ、これからも続いていくことと思います。

残念ながら、本日、在校生は私だけの出席となってしまいました。在校生全員の  
思いを代表して、先輩方の功績を称え、敬意を表し、感謝申し上げます。これから  
も、私たち後輩が責任を持って、この駒場東邦をさらなる発展へと導いていきます。  
改めて、先輩方の卒業を祝福し、以上で送辞とさせていただきます。

令和四年三月七日

在校生代表

中野湧太